

【TOPICS】

- 1P：◇老子「上善の言葉」 ◇お仕事備忘録 ◇8,9月の勉強会のお知らせ
- 2P-3P：◇人の輪数珠つなぎ ～、森日和氏インタビュー～
- 4P：◇緊急企画～災害に備えるBCP～
- 5P：◇新インターンシップ生の紹介③
- 6P：長田会計事務所の〇〇なコト ◇豊の部屋 ◇今月のおやつ ◇編集後記

【発行者】
長田会計事務所
大阪市中央区徳井町2-2-9-701
TEL 06-6944-2111
FAX 06-6944-2110
Mail nagata@office-smile.jp
HP http://office-smile.jp/

【編集部】
編集長 遠藤 悦代
部員 岡 拓海
木下 心路
発行責任者 長田 雅子

老子「上善の言葉」



聖人は常の心無く、百姓の心を以て心と為す

聖人は定まった心を持たず、人民の心を自分の心としている。

宮下真著「心の疲れがすうっと消える 老子 上善の言葉」より引用

「道」と一つになった聖人は、個人的な感情で行動したりせず、偏った考えや価値観は持ちません。

つまり悪も不誠実も偽りもそのまま受け入れて、その結果、良いほうへとつなげていくことができるのです。

皆それぞれ価値観は異なりなす。だからこそ、自分と違う価値観や考えを持つ人を嫌うのではなく、受け入れて歩み寄ることが大切です。



8月は、夏季休暇を実施する企業が多いため、休暇スケジュールを確認し、発注や納期ミスなどがないようにしましょう。

2018年8月 お仕事備忘録

1. 個人事業者の税金の納付
2. 随時改定の反映 (4月昇給の場合)
3. 賞与と所得税の納付
4. 熱中症対策
5. 夏季休暇にまつわる諸業務
6. 中元、暑中見舞い状の礼状送付

受講を希望される方は、お知らせください！
(別紙のご案内もぜひご覧ください。)

8,9月の勉強会のお知らせ

- 生命保険の基礎知識
日程：8月2日(木) 10:00~12:00
場所：長田会計事務所セミナールーム
受講料：2,000円/お1人様
- 日経新聞の読み方・活かし方
日程：9月6日(木) 13:30~15:30
場所：長田会計事務所セミナールーム
受講料：2,000円/お1人様
- 経営学のイロハ勉強会
日程：9月12日(水) 10:00~12:00
場所：長田会計事務所セミナールーム
受講料：2,000円/お1人様
- 決算書をさらりと読もう！活かそう！
日程：9月14日(金) 13:00~17:00
場所：長田会計事務所セミナールーム
受講料：5,000円/お1人様



弊所とお付き合いのある、元気な人をご紹介しますコーナー。

2018年の第5回目は、一般社団法人つぼみ咲くプロジェクト代表理事の森日和様です。

つぼみ咲くプロジェクトは『誰もがイキイキと輝き、みんなの幸せを想い、行動し、愛と笑顔が溢れ、「ありがとう」が飛び交う社会を目指し実現する』をビジョンに活動されています。女性の視点から社会の問題に対し、和合を合言葉に複数の事業でご活躍されています。現在までの経緯を含め、これからのビジョンをお伺いしました。

長田所長（以下長）お仕事の内容を教えてくださいませんか。

森日和様（以下森）社会の憂いを女性目線で解決しようと思い活動しています。今は4本の柱を立てています。

1つ目は人づくり事業です。主に教育事業で、一番活発に動いている事業です。日本のこころ、つまり和合の心を基本精神として、子どもたちの学習と育成を支援する教育プログラムを創り実践しています。また、女性の活躍の場として登録講師制度があり、多くの女性に講師としてご活躍いただいています。

2つ目はまちづくり事業になります。大阪にIR(カジノの併設を認める区域を指定して設置される施設)の法案が通るといわれています（インタビューは2018年6月11日に行われました）。IRのまちづくりを行政任せにするのではなく、勉強会を開いて、考えられるメリットとデメリットを学び、女性の意見がまちづくりに反映されるよう働きかける活動を行っています。

3つ目はものづくり事業です。日本人が日本の文化を語るための絵本を製作しています。グローバル化が進んでいく中で、国際人として重要なのは、語学力を以て文化の違いを語り、お互いを理解することだと思っています。そのために、幼児教育として幼稚園などで文化を学ぶことができる絵本の読み伝えも行っていきます。

4つ目は国際経済文化交流事業です。現在は観光で日本を訪れる海外の方に歴史や文化を感じていただける旅のサポートをさせていただいています。日本は観光立国を目指しています。文化の発信によって文化が活性化され、結果的に文化を守り、海外の方に日本の精神文化をお伝えすることができます。また、雇用を生み、若者の流出防止になると考えています。



日本の美徳を語り継ぐプロジェクト

長 では、『一般社団法人つぼみ咲くプロジェクト』を起ち上げるまでのことを教えてください。

森 つぼみ咲くプロジェクトの前身は、まちづくりの研究団体です。研究成果として、「女性の目線でまちづくりをすると、誰にとっても優しいまちとなる」という結論に至ったことから、女性の意見をまちづくりに反映できるように、法人化されて以降、自治体と一部連携をとらせていただき、ソフト面に関し、まちづくりについて意見交換をさせていただいています。私は途中から代表をさせていただいており、自分の憂いに対する想いとつぼみ咲くプロジェクトのビジョンが合致したため、2015年に代表理事を引き受けました。

2011年東京で秘書の仕事をしているときに東日本大震災が起こりました。すごい揺れているなと思って外を見ていました。揺れるたびにビルが伸びたり縮んだりするんですね。縮んだ瞬間窓ガラスがパンパンと割れるのを見て、「今、下を自転車で走ってなくてよかった」なんて思っていたんです。

それから一週間もしないうちに、「日本人はすごい」というニュースが世界に流れました。こんなに大変な時でも略奪したりしない、列を作っ
て並んでいる、譲り合う、人の命を優先して亡くなられた方がいる、東京でも階段を半分空けているというものでした。この姿を見た時に、多くの方たちが命がけで日本人のあるべき姿を見せて下さったんだなと思ったんです。この記憶を風化させたら、命がけで見せて下さって、命を失くしていかれた方々に申し訳ないと思いました。





日本のこと、なぜこういう行動ができるのかという日本の精神文化を伝えていく人間は多いほうがいいと思っただけです。自分が至らなくても伝えていく人間は多いほうがいいと思って、日本の精神文化を国内外に伝える活動にシフトしました。

長 森さんの感じる日本の憂いとはどのようなものなのですか？

森 本当に日本に対する憂いが大きいんです。お話ししても、それは日本が平和だから通用しますよね？という考え方の人が多いと思います。世界の情勢を見ていますと、しっかりと国益を守ることができる人材が将来にかけて必要になるのではないのでしょうか。もっと物事を深く見て知って、そして考えて、生み出して、行動できるような、世界に通用する人材を作っていくと、ちょっと日本という国は危ないなと思うんです。

例えば、日本人は「損得」ではなく「美しさ」を大事にしてきました。それが、今は「損得」で物事を考えるようになってきており、それはかっこよくはないんです。やっぱり日本人の「美しいか美しくないか」で物事を判断する生き方を残さなければならない。「つぼみ咲くプロジェクト」に出会う前から、日本の精神文化を未来に残していくという活動をしていかななくてはいけないと思っていました。

小笠原流礼法で勉強させていただいていたのですが、全てのしきたりや礼儀作法には意味がある。その意味を100年後、200年後、1000年後、2000年後の日本人の日常生活に残したいと思ったとき、伝えていくのは私たちです。そして、未来の日本人に伝えることは、今を生きる日本人にとっても誇りに思えることだと思っています。

先日も幼稚園でお茶碗の取り扱い方を練習してきました。お茶碗の中には大事な命が入っていると考え、お茶碗の取り扱い方から命の扱い方を学ばずにはいけません。お茶碗は両手でやさしくそっと持ち上げる。ご飯だから乱暴に扱っていいというわけではありません。

日本人は万物に命を見て、その価値に差をつけない民族です。目の前の命を大切に扱うことによって、「お友達の命、先生の命、お父さんお母さんの命。命は両手でそっと持ち上げるように接するんですよ」ということを学びます。食事の作法を学ばずに命を片手でぼいっと持ち上げて、肘でついて食べて…みたいになると、目の前の食べ物の命だけではなく、全ての命を乱暴に扱うような世の中になっていくのではと思いました。

憂いていることを少しでも善くしていけるように、「損得」ではなく「美しさ」を大切に、命を大切に日本の精神文化を次世代を担う子どもたちに弊社団の教育プログラムを通して、コツコツと伝えていこうと考えています。

答えは足元にある

長 今後はどのように展開していきますか？

森 本当に4本の柱をひたすらやっていくだけなんですけど、もう少し地盤固めですね。少しずつ規模が大きくなってきているので、コンシェルジュサービスを担うことができる人材育成が急務です。

日本の文化の役割を自覚して、世界でご活躍いただけたら嬉しいなと思っています。今は世界に飛び出すだけではなく、日本の中にも世界の皆さまと接して仕事をすることができるので、やはり何を伝えるかが重要です。

日本の歴史を勉強するだけで、自己肯定感が高まると思います。世界最古の現存する国家ですから、世界で最も長い歴史を持っていますし、そこに経営の秘訣もあると思うんです。長く続けたい時に学ぶべき秘訣は、長く続いているものにあると思うので、日本の国柄そのものが会社の経営にも役立つと思います。お互い様、おかげ様にあふれているのが日本の国柄なので、それが会社経営にも役立つんじゃないかと思っています。



一般社団法人つぼみ咲くプロジェクト
HP : <http://tsubomisaku.jp/info.html>



緊急企画～災害に備えるBCP～

6月の大阪府北部地震及び7月の西日本豪雨で被災された方には、心よりお見舞い申し上げます。速やかな復興を祈念しております。

今回、想像もしていなかった地震が大阪を襲いました。朝の通勤の時間帯の発生で、いわゆる『帰宅難民』となったスーツ姿の人々が十三大橋を並んで渡る姿、いつまでも動かない車両渋滞は記憶に新しいところだと思います。豪雨では操業不能になった製造業も多くあります。廃業せざるを得ない事態も予想されています。多くの方が職を失うことになるかもしれません。

あなたの会社が1ヵ月事業ができない状態になった場合、損失はいくらになるのでしょうか？
私たちは予想していなかった災害が起きた時、どのように対応すればいいのでしょうか？

内閣府は企業に対して、地震などによる災害被害を最小化する「防災」と、企業活動の維持または早期回復を目指す「事業継続」の両方を推進すべきと定めています。

BCPはBusiness Continuity Planの略で、企業が自然災害、大火災、テロ攻撃などの緊急事態に遭遇したとき、損害を最小限にとどめつつ、事業の継続、早期復旧を可能とするために、平常時に行うべき活動や緊急時の事業継続のための方法、手段などをあらかじめ取り決めておくものです。

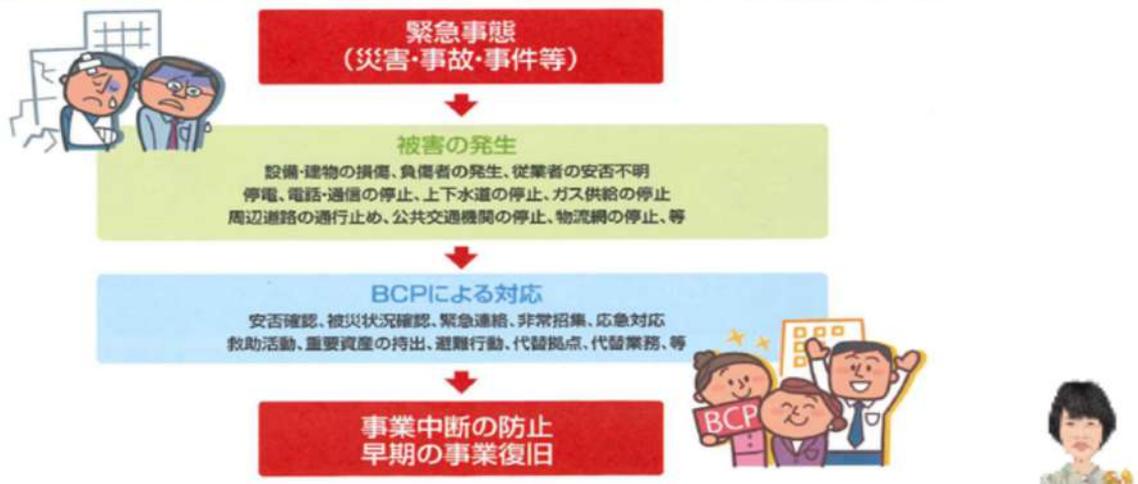
BCPは決して特別なものではありません。例えば、社長の病気入院も企業にとっては『緊急事態』です。その時、誰が社長に替わって指揮をとるのでしょうか。もし仕入先が操業不能になった場合、どのように製造・販売を続けるのでしょうか。このような事態への対応を計画として「見える化」しておけば、緊急時に対応できます。緊急事態における人・物・金・情報・組織への対応。BCPは日々の経営の延長にあるものです。

そして、BCPを策定・運用することで、緊急時の対応力が鍛えられるだけでなく、平常時にも大きなメリットがあります。例えばBCPの策定により自社の経営の実態（在庫管理の実態、顧客管理の実態等）が把握でき、日々の経営管理を再確認することができます。また、BCPを策定することにより、融資や保険の優遇が受けられる場合もあり、取引先や社外からの信用が高まることも期待できます。

BCPは事業を継続するための行動計画であり、各企業の実情に合わせる必要があります。BCPを作成することによって、脅威を「想定外」から「想定内」にし、その備えが組織を強くしていくのです。

私たちは地震の際、初動対応（安全確認、安否確認など）ができないことに気づきました。所長、スタッフ、インターンシップ生全員に一斉連絡ができ、誰が読んだのかを全員が確認できるSNSのグループを早速作成しました。強い組織への第一歩です。

事業継続計画(BCP)の活用





新インターンシップ生の紹介③



今年の3月から、弊所では3期生となるインターンシップ生の受け入れをスタートし、3名を迎えました。

今月はいよいよ最後の一人、田村結稀くんを紹介させていただきます。

3人目の新インターンシップ生は、田村結稀くん（摂南大学経営学部3回生・三重県伊賀市出身）です。

自分自身について教えてください。

★大学で何を学んでいますか？

会社に関する法律や原価計算を中心に勉強しています。

★どんな性格だと思いますか？

自分がしたいと思ったことに関しては、納得がいくまでとことんするタイプです。あとは超がつくほどのマイペースです。

★好きなこと・趣味などを教えてください。

バンドが好きなので、月に1回はライブに行っています。

★尊敬する人は誰ですか？

母です。自分に最も影響を与えて将来の道筋を手助けしてもらいました。

長田会計事務所について教えてください。

★なぜ、長田会計事務所ですとインターンをしたのでしょうか？

高校受験のタイミングで会計士を目指そうと思い、インターンシップではより濃いものを身につけようと思ったからです。

★会計事務所の印象を教えてください。

前 お仕事以外の面でも活動しているので、とても忙しいのではと思っていました。
今 たしかに忙しいですが、とても充実した日々を過ごせています。

★働いてみて、楽しかったことを教えてください。

自分が勉強してきた知識を実際に使うので、それがとても楽しいです。

★これからどんなことをやってみたいですか？

持てる知識の幅をインターンシップを通してより増やしたいです。

★将来について自由に書いてみてください。

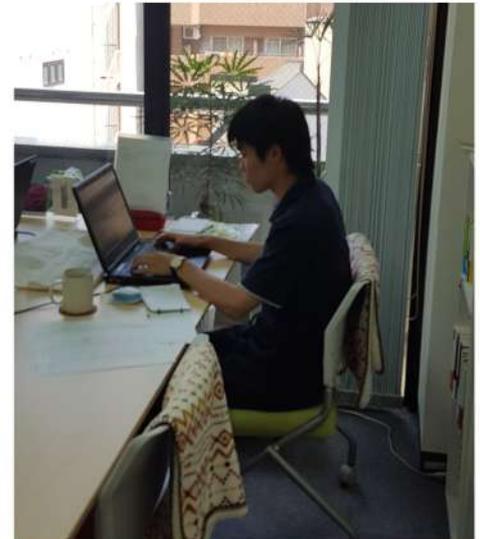
現在は日本の公認会計士を目指していますが、最終的には海外に出て会計士ができればなと思っています。とにかく悔いが残らないように生活していきたいです。



★所長よりひとこと

田村くんは、家族を大切にしている、とてもやさしいというのが第一印象です。

その後、朝礼等で話していると、ユーモアをもって何でも楽しく取り組んでいるのが分かりました。優しく朗らかな性格を活かして、会計士として海外と日本の懸け橋になりたいという夢を実現して欲しいです。



長田 雅子



「盆踊り」

夏祭りといえば、私は盆踊りを思い出します。浴衣を着て、友達みんなと一緒に輪になって、音楽に合わせて踊る盆踊りが大好きでした。一番好きなのは、河内音頭。曲を聴くだけで踊りだそうになります。

写真は、幼稚園の頃のものですが、人一倍張り切っているのが分かります。現在住んでいるところでは、盆踊りが無いので残念ですが、一度は、岐阜県の郡上踊りに参加して夜通し踊ってみたいと思っています。



福本 雄基

(インターンシップ生)



「くじびき」

子供の頃に夏祭りに行くとき必ずくじびきを引いていました。

300円で1回引く仕組みで、露店に並ぶゲームやおもちゃと口の上手いおじさんが僕らを誘惑してきます。学校内でも誰も当選したことはなく、子供ながらに当たるはずがないとは薄々感じてはいましたが、露店めがけて走るのをやめることはできませんでした。

今から思うとお小遣いの無駄遣いですが、毎年はずれの景品でみんなと遊んだのは良い思い出です。

長田会計事務所の 〇〇なコト

今月のお題：
「夏祭りといえば」

来月のお題は、
「夏休みの宿題といえば」です。

小向 紗妃

(スタッフ)



「ベビーカステラ」

私にとって夏祭りといえばベビーカステラです。

私は人ごみが苦手なので夏祭りにはあまり参加したくないのですが、子供の頃、「行きたくない！」という、母の「ベビーカステラ買ってあげるから行こう」という言葉につられて夏祭りに参加していました。

なぜそこまでベビーカステラを好きだったのかは分からないのですが、毎回食べていました。たぶんわたあめでもよかったのかもしれませんが。

でも、なぜか今でも夏祭りに行くとき子供の頃の気持ちに戻って買っちゃいます。

田村 結稀

(インターンシップ生)



「おにごっこ」

僕の「夏祭りといえば」は「おにごっこ」です。

中学生の頃の話ですが夏祭りはなんといっても屋台が醍醐味と思う方も多いと思います。

しかし当時はあまりお金もなく友人と集まってなにをしようかとなった時に始まったのが「おにごっこ」です。

あの暑い中汗だくになって全力疾走していたことを思うと少し恥ずかしい気持ちもありますが、今ではいい思い出の1つです。



豊の部屋



暑中お見舞い申し上げます
毎日暑いので、
つつい眠気が…



今月のおやつ



名古屋のリニア・鉄道館のおみやげ、50センチほどの長〜いバウムクーヘンです。これはリニアモーターカー。新幹線もありました。

編集後記

スタッフ遠藤です。今号から編集長となりました。よろしくお願いたします。

編集部に新しいメンバーが加わりました。新入部員のインターン生木下は絵がとっても上手いので、少しずつ事務所通信を素敵にしてもらえるのではと期待しています。2年目のインターン生岡は文章担当です。サッと要点を捉えてまとめてくれています。

それぞれの得意なことを活かして良い紙面づくりをしてきます。

